

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書（Web 公開用）

申請者（ふりがな）	武井祥（たけいあきら）
所属・資格（※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載）	早稲田大学大学院人間科学研究科修士課程 1 年
発表年月 または事業開催年月	2025 年 9 月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	ヒューマンインタフェースシンポジウム 2025
発表者（※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること）	武井祥・百瀬桂子
発表題目（※学会発表の場合のみ記載）	鉛直運動物体の到達時間推定精度に関与する脳活動の調査
発表の概要と成果（抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。） 運動物体に対する予測において、上昇運動と下降運動の間には到達時間推定精度の非対称性が存在することがわかっている。このことがどのような予測・認知処理によるものなのかは明らかになっていない。そこで到達時間推定課題中の脳活動を計測し、運動準備電位とフィードバック関連陰性電位の二つの事象関連電位を用いて比較する。刺激はヘッドマウントディスプレイを用いて VR 空間内に提示した。加速度条件（加速・減速）と運動方向（上昇・下降）を組み合わせ提示した。その結果、運動準備電位に関しては上昇条件でより明瞭に確認することができたが潜時が異なっていた。フィードバック関連陰性電位は下降条件で典型的な波形を確認することができたのに対し、上昇条件では確認することができなかった。このことはデータ数の不足が要因と考えられ、適切なデータ数となるような課題の難易度設定が必要であると示唆された。	

※無断転載禁止